

開催地名：東京都東村山市	
開催日時	令和 3 年 12 月 6 日（月） 13:00～14:30
開催場所	東村山市市民センター第 1・2・3 会議室
語り部	糸日谷美奈子 （千葉県千葉市）
参加者	自主防災組織 約 70 名
開催経緯	・女性や子ども等へのきめ細やかな支援を進める体制づくり ・女性視点に立った防災意識や更なる普及が必要 ・地域防災力の向上 ・若年層の危機意識啓発 ・若年層及び女性防災リーダーの不足
内容	(1) 東日本大震災前の地域について 私は岩手県釜石東中学校で勤務中に東日本大震災を経験した。釜石市は、岩手県沿岸南部に位置する町である。世界遺産として日本最古の洋式高炉があり、2019 年には釜石東中学校の跡地でラグビーのワールドカップが開催された。 釜石市では、1896 年明治三陸地震津波や 1933 年の昭和三陸地震津波で大きな被害を受けた。また、30 年以内に震度 6 弱以上の地震が起こる可能性は 75 パーセントであり、生きている間に必ず地震が来ると言われていたため、2011 年よりも前から防災に取り組んでいた。 釜石東中学校では小中合同の避難訓練やフィールドワークなどを実施。この事前体験を通して、自分たちは助けられる人ではなくて、助ける人なのだという気持ちが芽生えた。 (2) 震災時の状況 3 月 11 日 2 時 46 分、中学校では帰りの会を終えた頃、先生たちの携帯電話から一斉に緊急速報が鳴りだした。大きな地震と津波が来ることを感じ、先生・生徒は全員外に避難した。地面は波打つようにグニャグニャ揺れた。2、3 分の長い揺れが収まった後、サッカー部の子ども達が避難所に向かって走り出したので、他の生徒・先生もバラバラに走った。避難場所は、学校から約 800m 離れたデイサービスセンターの駐車場。しかし、海拔は変わらないためさらに上の第 2 避難所へ向かった。雪が降る中、小学生と中学生は手をつないで避難した。第 2 避難所は 400m ほど上がった場所だった。ここが最終目的地になっていたため、ほっとした束の間、海のほうからドーンと大きな音と揺れがあった。近くにいた先生が「逃げろ！死ぬぞ！」と大きな声で叫び、それを聞いて全員一斉に走り出した。国道を突っ

	切り、山を登り、長い時間山の中で過ごした。ここからどこに避難をしようかという話し合いを行い、開通したばかりの有料道路を通して釜石市役所の近くまで移動することになった。そのすぐ隣にある廃校になった中学校の体育館で一晩過ごすことになったが、地域住民も含めて小さな空間に2000名以上も避難をしたのである。 この震災で釜石市は10メートルを超える津波が到達し、死亡者数888人、行方不明者数154人となった。その中で、中学校・小学校にいた子ども達は皆無事に避難をすることができたため、「釜石の奇跡」と報道されることになった。 (3) 震災を通して感じたこと 釜石には「津波てんでんこ」という言い伝えがある。これはてんでばらばらに逃げなさい、子どもは親のところに戻らず、親は子が帰るのを待つのではなく、その場から安全な場所に避難しなさいというものである。お互いを信頼してまずは逃げよう、自分の命を自分で守ることで、他人の命を守ることにつながるという言い伝えだ。私たちが逃げたのは、当たり前行動であり奇跡ではない。そして、学校だけではなく地域全体に学びを共有することができていたら、被害を抑えられたのではないかと感じている。だからこそ、奇跡と称賛されることに違和感がある。後悔しない未来をつくるために、「自分の命は自分で守る。助けられる人から助ける人へ。学んだことを地域に伝える。」この3つを合言葉にしていきたいと思います。  
開催地より	今回の講演を通して、改めて防災を地域に共有することの大切さを感じた。地域の皆様と共に災害に強い東村山市をつくっていききたい。